

留守家庭児童会室等での三季休業期昼食サービス試行実施結果報告

1. 目的

これまでから三季休業期の昼食サービスについては、留守家庭児童会室等で提供して欲しいという要望を保護者から受けていました。しかしながら、三季休業期の昼食サービスを導入するにあたっては、お弁当事業者の選定や、注文の集約、集金方法など様々な課題を有していたことから、これらの課題を解決するため、公民連携プラットフォームの仕組みを利用して、事業の実施手法や継続可能性を検証するため、夏季休業期間に昼食サービスを試行実施しました。

2. 試行実施期間

令和6年7月24日（水）から令和6年8月26日（月）まで

3. 試行実施した施設・対象者

お弁当提供事業者が対応可能な施設で、利用人数やニーズの高さを考慮して計11校を選定。留守家庭児童会室と放課後オープンスクエア（総合型放課後事業）の利用児童を対象。

中部	山田	交北	山田東
南部	開成	香里	枚方第二
東部	菅原東	藤阪	
北部	牧野	樟葉	

4. 事業の概要

（1）利用方法（保護者・児童）

- ①スマートフォン等にアプリをダウンロード、学校名、氏名等を登録
- ②メニューを確認し、利用日を選んで注文
- ③アプリ内で代金決済
- ④留守家庭児童会室にて職員からお弁当を受け取り

（2）1食あたりの値段

550円～570円

5. 利用状況

	留守家庭児童会室	放課後オープンスクエア
平均参加人数（A）	711人	306人
昼食サービス平均注文数（B）	89食	21食
利用率(B)/(A)	12.5%	6.9%

※総注文数 2,548食 注文実日数 23日

※参加した児童のうち昼食サービスを一度でも利用した児童の割合

留守家庭児童会室 35.5%、放課後オープンスクエア 13.4%

6. アンケート調査結果

【1】対象者：試行実施校 11 校の総合型放課後事業利用児童及びその保護者（3,329 人）

【2】実施期間：令和 6 年 9 月 9 日から令和 6 年 9 月 30 日まで

【3】実施方法：WEB アンケート

【4】回答者数

（児童）484 人、（児童の保護者）1,137 人

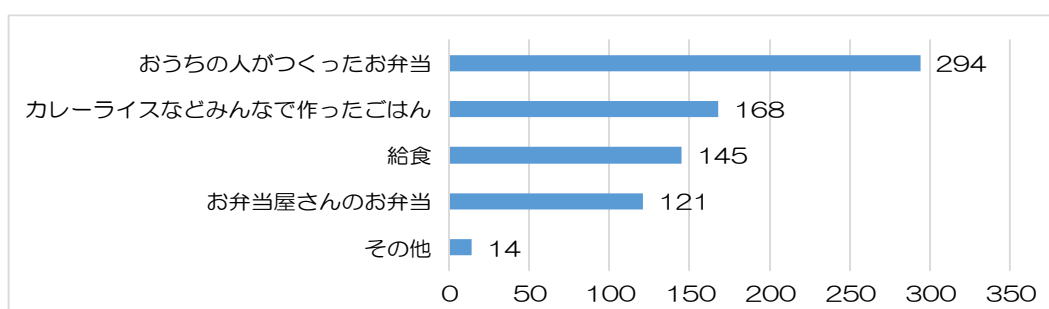
【5】アンケート結果のまとめ

（1）児童

- ・児童からは今回のお弁当に対して、「美味しかった」、「食べてみたい」との声が多くありました
- ・つぎの昼食サービスのお弁当はどのようにしてほしいですか（2 つまで）

量をすくなく、おうちの人が作ったようなお弁当、めんのメニューを増やしてほしい、特にない、お肉やお魚を増やしてほしい、おかずのメニューをふやしてほしいなど

- ・夏休みなど、どんなお昼ごはんが食べたいですか（2 つまで）（件数）

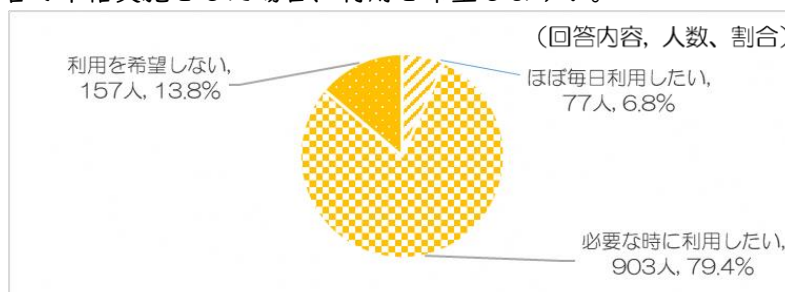


「その他」の意見

自分で作ったお弁当、スーパーのおにぎり、ハンバーガー、ステーキ、ラーメン など

（2）保護者

- ・昼食サービス利用の感想として、「お弁当づくりの負担軽減になった」、「こどもが喜んでた」、「保護者の都合でお弁当を作れない日も参加できた」などの声がある一方で、「お弁当の単価が高い」、「野菜が少ない」「ヘルシー志向ではない」等、価格やメニューについて改善を求める声も多くありました。
- ・価格については、サービスの利用の有無にかかわらず「高い」と感じている保護者が多いものの、内容に対する価格設定は「妥当」と回答した割合が一番多くなっています。
- ・多くの保護者が昼食の選択肢の一つとして、事業実施を望んでいることが確認できました。
- ・今回の試行事業と同様の内容で本格実施をした場合、利用を希望しますか。



7. 課題と今後の方向性

今回の試行実施によって、これまで課題としていた注文の集計や集金を要することなく、昼食の選択肢が増えたことにより、保護者がお弁当を作る負担軽減が図られたと考えています。

また、試行実施期間の児童の出席状況においては、試行実施施設は昨年度よりも出席率が高かった結果が出ています。

今後は、アンケート結果を踏まえ、子どもたちに合った量やメニュー、価格設定の検討や全校での実施に向けた事業者の開拓などを進めるとともに、経済的な困難を抱える家庭等など長期休業期間中の食事について配慮が必要な児童への対応など福祉的な観点も含めて検討していきます。